

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800498		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん喜多方 1階		
所在地	福島県喜多方市松山町村松字上原22番地		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	平成26年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成26年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「自由」と「家族の絆」を大切にし、利用者が自らの意思で自由に生活が出来る人生の最後まで人としての尊厳を持ち楽しく生活していただけるよう支援すると共に、いつまでも家族との絆が続くよう支援して参りたいと考えます。又、職員とのコミュニケーションも大切な絆であるので職員がやめないう組織作りに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1 法人は多くの介護事業所を展開しており、各事業所に対して事業運営及び介護サービス等に対してのバックアップ体制が確立されている。さらに職員の資質向上に力を入れており、各委員会(運営、問題、教育)の目標実践シートや改善実践シートを活用して職員個々の技術向上に努めている。
- 2 全職員が利用者本位のケアを基本に共通認識をもってサービスの実践に努めている。
- 3 法人では基本理念に「家族の絆を大切にする」ことをうたっており、各事業所に4つの「家族部屋」を設けて家族が一緒に生活できるよう配慮がなされており、好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念に基づき事業所内に理念を掲示している。また、接遇スローガンを全職員が共有し日々実践している。	法人理念である「自由の尊重」「家族の絆を大切にすること」を踏まえ、事業所独自では地域との連携をはかり、開かれた施設を目指すことをうたっており、全職員が地域密着型サービスを理解して日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事でボランティア団体に来て頂いたり、地域の清掃活動に参加している。町内会にも加入している。	地域の行事（一斉清掃、運動会、公民館行事等）には積極的に参加し交流しており、事業所行事にはボランティアの協力を得て多くの地域住民の参加があり、双方の交流が定着している。また、近隣住民から野菜等の差し入れがあるなど日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と散歩の際に近所の方に挨拶をして交流を深めている。また、行事等で施設との関わりに協力していただけるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議を通して運営状況を報告している。課題に対して話し合いをすることもできおり運営に反映されている。	会議は定期的に行われており、委員は各分野から選任されている。委員からは多くの意見や提言があり、事業所運営やサービスの向上に活かされている。また、委員から行政職員の参加について提案があり、現在は行政職員の参加もある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて相談をしている。毎月の介護相談委員訪問時にも気軽に相談できる環境になっている。	利用者の相談や事業所運営について常に連絡し、協力関係を築いている。現在は運営推進会議へ行政職員の参加があり、情報の共有と連携強化が図られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する理解を深める為に、勉強会を予定している。施錠については帰宅願望が強く不穏から離設に発展し、その為の事故等が予測できる場合のみ施錠している。	全職員が「身体拘束に関する禁止事項」について研修を通して理解しており、拘束のないケアの実践に努めている。利用者の不穏時にはマンツーマンでの対応に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の言葉使いや態度など気になる点があった場合、職員同士が注意しあえる環境作りをしている。勉強会の実施も毎年計画している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている。制度をよく理解するため今後、成年後見人制度の勉強会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を説明し同意を受けた後、契約の締結を行っている。 疑問点については十分、理解していただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にご意見箱を設置。また、家族、利用者様からの意見・要望は都度対応し、職員へは、会議等で話している。誰でも連絡ができる苦情窓口もある。	家族の面会時や家族会、サービス計画の変更時等を利用して家族の意見や要望を把握している。出された意見等は施設長はじめ管理者を中心に全職員で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員から提出される改善シートを活用し職員の要望や不安・不満を確認。内容によっては全体ミーティングで協議している。分からない事を聞ける環境作りをしている。	改善シート等を活用して職員の意見把握に努めている。要望のあった浴室のシャワー用椅子の購入等については事業所で即時対応している。また、法人ではハード面の要望についても対応する体制となっており、現在職員の提案により、共有空間の一段高くなっている畳のコーナーを取り除く等の模様替えを検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の特技を把握し、それが生かせるように担当を持たせ達成感、向上心を感じながら就業できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者・管理者研修をはじめ外部・内部研修に参加を促している。また、資格取得制度にも力をいれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会津方部または喜多方市のグループホーム協議会に参加し意見交換し見聞を広めている。代表者は全体会議で他職員に復命し質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に利用者様の要望や不安な思い等をお聞きし安心して生活できるよう努めている。入居後も会話のなかから把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経緯、家庭環境、介護の状況などを相談内容から困っていることや不安などを把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の要望を伺い、望む生活が出来る様に支援するとともにできる事できない事を見極めできる事はご自身で行っていただき残存機能の維持に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様自身で行えること、行えないことを見極める。行えることについては可能な限りご自身で行っていただきできない部分での支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や一部受診の支援などをお願いしている。電話で話ができる利用者様は電話で会話をさせていただいている。毎月の家族へのおたよりで近況報告にも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅や外泊、美容室や買い物などご家族様の協力を得て行っている。	利用者の友人等の訪問があり、いつでも気軽に訪問してもらえるよう努めている。また、家族の協力を得て馴染みの理美容院の利用や友人宅の訪問、買い物等の支援をしており、これまでの関係が継続できるよう支援している。訪問理容も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間で自然とできた家事作業の役割分担を大切にし、その関係性を壊さないよう声掛け・見守りをしている。花紙丸めや貼り絵などの共同作業での作品作りに参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族の方から相談の連絡があった場合には、必要に応じてご本人、ご家族の相談や支援に努める様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動から不安や不満を感じるような様子を早期に発見し事業所で解決できることは即、対応している。	職員が一人ひとりにやさしく話しかけたり、触れ合いながら思いや意向の把握をしており、利用者の状態や個性に合わせた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報提供やご本人様からの聞き取り事項を基本情報書を作成し情報の蓄積、共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事摂取、排泄状況、バイタルチェックを記録し健康状態の把握に努めている。日々の変化をケース記録に記録し情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、職員とケアマネージャーが参加してカンファレンス、モニタリングを実施。更新時は、家族への説明を行ない、記名捺印をいただいている。	本人の思いや家族の要望を踏まえ、身体の状態や職員の気づきをもとに介護計画を作成している。個別記録をもとにモニタリングし、利用者の状態に即した介護計画の見直しをしている。短期目標についてより具体的な表現とするため、現在全職員で検討しているところである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の状況を記録し申し送りやカンファレンスで職員全体に周知し協議し計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の要望にはできる限りの対応を心がけている。身体機能の低下による受診困難な方、また受診拒否される方に訪問診療と訪問看護を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・民生委員・地域包括等協力を得ている。運営推進委員会にも出席していただき利用者が安心して暮らせるようそれぞれの力を借りながら地域との関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外来診療、訪問診療を受けています。ご本人様、ご家族様の意向に沿った医療機関を選定していただき受診はご家族様または事業所に対応しています。医療連携室と連携し情報共有を図っている。	家族協力による通院や定期的な訪問診療の受診支援を行い、適切な医療が受けられるよう本人や家族の希望に応じ対応している。普段の様子や変化、受診内容については家族に報告し情報共有がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全身状態の異常の早期発見に努め異常があった場合等医療機関に連絡し指示を仰いでいます。訪問診療を利用されている方については訪問診療担当の看護師に指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室と連携を密にとり情報交換を行い情報を把握し退院後の対応についても相談しています。退院時は連携室同席の下、実態調査を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居生活の過程で重度化や終末期を迎えた場合、家族、かかりつけ医、職員、と協議してご本人の思いに配慮しながら方針を共有できる体制づくりに努めている。看取りについての勉強会を行ったが看取りをする体制にはまだ至っていない。	入居時に本人や家族へ事業所での指針を十分に説明している。状態変化に応じて主治医や医療関係者や職員を含め繰り返し話し合いを行い、方針の共有を図っている。職員は研修会に参加する等して看取りの体制を整え、要望に応えられるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、年1回は、消防署に依頼し、全職員参加の救命救急講習会を開催している。また、緊急時に迅速に対応できる体制づくりを検討中。(利用者様情報一覧表など)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月第3土曜日に避難訓練を実施。緊急時は緊急連絡網により呼び出し体制が整っている。役割分担を明確化し非常時に備えている。	消防署立会いの総合防災訓練を定期的に実施され地域協力について近隣代表と話し合いをしている。毎月1回の自主訓練では利用者と一緒に訓練を行い避難経路の確認をしている。災害に備え食糧や蛍光たすき等の準備がされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを意識しながら会話しています。難聴の方には特に聞き取りやすいようにゆっくり丁寧に会話することを心がけています。接遇スローガンを基に声かけや行動を行っている。	一人ひとりのプライバシーに配慮した言葉遣いや対応に留意し会話している。接遇スローガンにより全職員が定期的に自らを振り返る機会があり、お互いに注意しあえる環境に心かけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事作業やレクリエーションの参加時、衣類の選定、水分摂取時にはお好みのものを自身で選定していただけるようにしています。日常生活の中で自己決定の機会を多くもてるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方がどう過ごしたいかを伺い、調理やレクリエーション等参加の時などは声掛けをしながらその方のペースで行っていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の更衣時や外出の際にお好みの洋服を選んでいただいています。訪問理容にて散髪を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	料理の盛り付け、下膳や片付けと一緒に 行っています。食事を楽しんで頂けるよう食事の形態、彩に配慮している。	利用者の好みや季節感を取り入れて担当者が献立を作成している。事業所の畑で収穫した野菜を食材に使用する等、楽しみのある食事となるよう支援している。利用者のできる範囲で調理の準備や後片付け等を一緒に 行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼嚥下状況、嗜好、禁忌食など利用者様の状態に合わせた食事形態で提供しています。水分摂取困難方には形状を工夫して提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがいへの声かけや介助をしています。ご自身で行えない方には口腔清拭剤を使用し清潔を保持している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握トイレ誘導し、状態に応じできるだけトイレでの排泄を促しハビリパンツやパットの軽減を図っている。失禁がある方でも紙パンツを使用し自分で上げ下げしていただけるようにしている。	トイレでの排泄を大切にして、習慣や排泄パターンに応じさりげなくトイレ誘導を行い自立に向けた支援がなされている。紙パンツ等は本人の状態に合っているか検討を行い使用の軽減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動、軽運動に参加を促し体を動かしていただくように取り組んでいる。便秘時には主治医と連携を取りながら指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の声掛けを行い一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるようにな支援を行っている。	利用者にその日の身体状況や意向を確認し、気持ちよく入浴できるようコミュニケーションを大切にしながら入浴支援をしている。希望やタイミングに合わせシャワー浴や足浴、清拭等を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯の活動量を増やすよう心がけている。また、個室のため好きな時間に自由に休息ができる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明確認。不明な点は主治医、調剤薬局の方に連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を生かしたものを日々の生活の中で発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行状態に合わせ杖や車イスを利用し散歩を実施しています。お花見やドライブ、音楽参加の為に外に出かけている。	日頃より事業所の菜園で外気に触れる機会があり利用者の楽しみとなっている。また希望により公民館や近隣の散歩へ出かけている。あやめ観賞会やドライブ等の季節を感じられる外出支援も計画を立て行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持については入所時にご家族様と相談し利用者様に管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があった場合等には電話の取次をしている。ご家族様や友人からの電話も取次している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、全利用者様が自由に楽しめる空間になっている。庭やベランダに季節の花を育てたり飾ったりしている。	共用スペースの廊下の壁には利用者の手づくりの作品や写真が飾られている。食堂からは庭の畑の様子や季節の草花が見え、季節の移ろいを感じることができ居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで音楽鑑賞、ぬり絵、読書などその方に合わせたものを準備しています。座席にも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	出来るだけ馴染みの環境でゆったり落ち着いて生活していただけるようにしています。家具や身の回りのもの、仏壇などを持参していただき、少しでもいつもの生活を感じながら生活していただけるようにしています。	居室には馴染みのタンスや寝具、仏壇、お人形等を持ち込み、その方に合った居心地よく過ごせるよう配慮がなされている。できる方は掃除や片づけを職員と一緒にされている。夫婦や家族と同居できる家族部屋があり、同居の家族は認知症の診断の必要はなく健常者でも一緒に暮らせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー。利用者様が安全に生活できる環境になっている。		